

凸型林型化による防風林の機能向上

～「おとなりさん」をたずねて、見えてきた課題と目指すべき方向～

空知森林管理署

業務グループ

佐原 菜摘

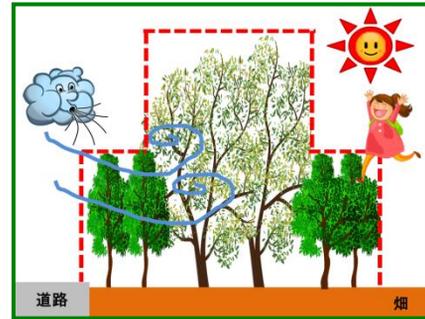
主任森林整備官

中鍵 貴之

取り組みの背景・目的

空知森林管理署管内には約300ヘクタールに及ぶ国有防風保安林があり、農地や地域の暮らしを強風から守る大切な役割を担っています。しかし、樹木の老齢化による機能の劣化が目立つなど、その改善策が急務となっていました。また、農地等への日照障害、落枝・倒木被害が増加するなど、地域から様々なご意見をいただくようになりました。

そこで、この防風林を若返らせるに当たり、防風効果を損なわず、かつ、農地等への影響を軽減できる方策として、防風林の林型を「凸型」へ誘導する施業をスタートさせました。



凸型林型のイメージ

取り組みの内容



○「凸型林型」への誘導とその施業方法

「凸型林型」へ誘導するために、第1期は農地に隣接した部分を林帯幅の1/3となる15m幅で帯状に伐採し、低木性の樹種であるナナカマド、ヤナギ等を植栽しています。第2期以降については、第1期の植栽部分がある程度成長した段階で、反対側の農地に隣接する部分を同様に施業します。そして、第3期は中央部に高木性の樹種を植栽し、凸型林型の防風林を完成させます。

○住民説明会等の実施

技術面の担保や地域住民の皆さんのご理解・ご協力を得るために防風林整備に係る講演会、現地意見交換会、住民説明会を開催しました。



○おとなりさんインタビュー

防風林の「おとなりさん」である地域の皆さん等を訪問し、防風林のある暮らしについてインタビュー。いただいた様々なご意見を施業に活かしています。



○安全に配慮した特殊伐採

伐採作業にあたっては、隣接家屋、農地等の安全を確保するため、ツリークライミング等による「特殊伐採」を行っています。



○防風林で町民植樹祭

事業地の一部を活用し、地元自治体と共催で植樹祭を実施。地域の皆さんに防風林へ親しんでもらうと共に、この取り組みへの理解を深めて頂いています。



今後の展開

この取り組みを進める中、施業の実施と併行して防風林の「おとなりさん」を訪ね、お話を伺ったことで、防風林を介した地域の皆さんとのつながりができ、その中で様々な課題が浮かび上がってきました。これらの課題を一つ一つ解決していくために、研究者の皆さんからの科学的な知見をいただき、また施業の結果等を確認、検証する中から、より良い方法を開発し、この防風林を守り育てていきたいと考えています。